

## 生理検査室における COVID-19 感染防止についての取り組み

～肺機能検査を中心に～

◎真庭 洋馬<sup>1)</sup>、小原 早苗<sup>1)</sup>、里見 郁<sup>1)</sup>、難波 真砂美<sup>1)</sup>、津浦 幸夫<sup>1)</sup>  
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院<sup>1)</sup>

[はじめに]本邦において 2020 年 1 月より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は感染者拡大を示し、安全に検査を行うための感染対策が求められるようになった。今回我々はエアロゾルによる感染リスクの高い肺機能検査の感染対策を中心に実施したところ、これをきっかけとする院内クラスター発生は 1 件も認めなかった。

[対象]2021 年 7 月 26 日～2021 年 10 月 5 日に肺機能検査を実施した患者 635 名(うち手術目的 394 名、その他 241 名)

[肺機能検査の主な感染対策]

- ①N95 マスク、フェイスシールドや検温による感染対策
- ②ビニールカーテン、サーキュレータ、換気など環境整備
- ③次亜塩素酸ナトリウムやエタノール等による機器の消毒及びセミディスポセンサーの交換
- ④コロナ検査実施状況の調査：肺機能検査日から前後 2 週間でコロナ検査を実施した患者の割合を調査

[結果]①諸々の感染対策により生理検査室内の感染拡大は抑えられ、患者とスタッフが安全に検査できる環境整備ができた。②医師の要望がある場合と患者が 60 歳以上に限

っては一般社団法人日本呼吸器学会による肺機能検査の見解を鑑みて当院感染制御部、呼吸器内科、麻酔科と院内でとりまとめを行い、肺機能検査を実施した。コロナ検査 {COVID-19 迅速抗原定性検査、核酸増幅検査(PCR 法、LAMP 法、マルチプレックス PCR 法:FilmArray システム)、外部委託核酸増幅検査(PCR 法)} を肺機能検査実施患者全体の 41.9%(うち手術目的で 56%、その他で 17%)に行ったがいずれも結果は陰性であった。

[考察およびまとめ]本来であれば肺機能検査前のコロナ検査実施率を 100%にすることが望ましいが、当院でも 41.9%にすぎなかった。しかしスタンダードプリコーション(標準予防策)など徹底することで未検者を含むすべての検査を通してクラスター発生をみることはなかった。この対策により感染拡大のリスクを最小限に留められる運用ができたと考えられる。

[結語]感染対策を徹底することで肺機能検査を過度に縮小することなく患者及びスタッフが安全に検査を実施できた。生理検査室 (内 2396)